

「蝶の道プロジェクト」について

中村 幹 (社会学部現代文化学科4年)

社会学部阿部治ゼミナールでは、文献研究だけでなく、学生自身が主体となって持続可能な社会について学ぶ活動を実践してきました。とくに、立教大学の地元である西池袋地域の方々との協働を通して、地域の緑化などを継続して行っています。ここでは、2013年度から本格的にスタートした「蝶の道プロジェクト」についてご紹介します。

2013年度、社会学部阿部ゼミナールでは「蝶の道プロジェクト」を推進してきました。これは、チョウを通じた大都市池袋の生物多様性の活性化と、地域のコミュニティづくりを目的としたプロジェクトです。具体的には、立教大学の位置する西池袋の街を中心に、チョウの成虫が蜜を吸いに訪れる草花や、チョウの幼虫が好んで食べる植物を各拠点に植えることでチョウを呼び、池袋の生物多様性を豊かにしていくことと、植物の植え込み作業をはじめとする活動を近隣の地域の方々と共に行うことで人の集まる場を作り、地域のコミュニティづくりに貢献するという二つの狙いのもと、池袋を、自然と人、人と人、地域と人がつながる街にすべく活動しています。

なぜ、テーマが「チョウ」なのか。これには三つの理由があります。

一つは、チョウは、その一生のほとんどをきまった植物に頼って生活をおくるため、その植物を植えて育てることでチョウも数が増えていきます。したがって、生物の種として数を増やすのが比較的簡単であること。次に、チョウが増えることで、チョウを餌とする生き物や、さらにそれらの生き物を餌とする多くの生き物が生息できる環境が整っていくこと。最後に、チョウが童謡や美術作品、装飾品などをはじめ、一般的にとっても親しみやすい生き物として認識されていることが挙げられます。

単に生物多様性の保全と地域のつながりを謳うだけでなく、一般に親しみのあるチョウという生き物を守っていくという目的を掲げることで、プロジェクト自体がより広く



バタフライカフェ

浸透するのではないかと考えています。

こうした活動の拠点が、立教大学からほど近いところにある「みらい館大明」です。廃校になった旧豊島区立大明小学校の敷地を利用し、特定非営利活動法人いけぶくろ大明が運営している生涯学習施設で、その敷地の庭の一部を利用し、チョウの集まる花壇づくりや、一般向けのワークショップの場を行っています。現在、庭にはチョウの集まる草花をはじめ、私たちが植え込みをした植物が育っており、チョウ以外にもヒキガエルやトンボなどたくさんの生き物が集まる場となっています。

2013年度は、主な活動のPRの場として、みらい館大明で「バタフライカフェ」というイベントを数回開催しました。これは、地域コミュニティの活性化を目的の一つとして掲げる当プロジェクトの活動についてより多くの地域の方に知っていただくために行ったものです。みらい館大明の一室を開放して、展示物やチラシなどでプロジェクトの活動を紹介し、その場で来場者向けの生き物観察などのワークショップも行いました。また2013年10月には、みらい館大明で行われた地域参加型のイベントに合わせ、小学生向けの企画として校庭での生き物さがしと落ち葉や木の実など使った工作を行いました。

まだ発展途上のプロジェクトですが、今後も地域の方のご協力が得られるように、また少しでも当プロジェクトが発展していけるように、ゼミ生一同、努力していきたいと思っています。



庭園整備